

共通教育教養科目（愛大スタンダード科目・主題探究型科目・課題発見基礎セミナー）

シラバス登録の手引き

共通教育教養科目をご担当いただき、ありがとうございます。

下記の【科目の趣旨・特徴】に沿って、専門知識のない全学の学生が受講できる授業内容・レベルで授業計画を立て、シラバスを作成していただきますようお願いいたします。

なお、同じ教員が同じ授業科目を2度担当する場合、学生は重複履修できませんので、2度とも同じ授業内容（同じシラバス内容）で差し支えありません。

【科目の趣旨・特徴】

○愛大スタンダード科目（非同期型遠隔授業）

8回で1単位の講義科目です。120～180人程度の受講生を対象に、非同期型遠隔授業で実施してください。教養として高校を卒業したばかりの学生が文系理系を問わず十分理解できる内容であることを前提として、各教員の専門知識を解りやすく伝える授業を行ってください。

○主題探究型科目（対面授業）

8回で1単位の講義科目です。30～50人程度の受講生を対象に、対面授業で実施してください。授業における探究主題（問い）を基に、学生が自ら学習課題を設定できるように配慮してください。また、汎用的能力育成という視点から、アクティブ・ラーニングを促すための手法を組み入れてください。

○課題発見基礎セミナー（対面授業）

8回で1単位または15回で2単位の講義科目です。数十人程度の受講生を対象に、対面授業で実施してください。授業で解説された主題を基に、学生が自ら課題（問い）をみつけ、授業内外における情報の収集や分析等をとおして、主体的に探究学習を行えるように配慮してください。

【シラバス記入要領】

【科目の趣旨・特徴】に沿って授業計画を立て、全学版の「シラバス登録の手引き」に従って記入してください。特に、次の事項に留意してください。

授業題目

- ・授業科目名と同一または非常に似通った授業題目は避ける。
- ・課題発見基礎セミナーでは「共通教育授業計画」で決定済みの授業題目を記入する。

授業の到達目標

・「授業の到達目標（行動目標）」は「説明できる・列挙できる」等の測定可能な動詞を用いて記述する。（「理解する・身につける」等の総括的な概念をもつ動詞は「授業の目的（一般目標）」を記述するのに用いられ、ここでは適切でない。詳しくは、「[授業の目的と到達目標の書き方について](#)」を参照。）

授業概要

- ・授業を実施する形態（非同期型遠隔授業・対面授業）を記入する。
- ・どのような授業内容をどのように展開するのかを記入する。
- ・全学の学生が受講できる授業内容・レベルに設定する。（例えば、高校で必修でない数学ⅡⅢABCや物理・化学・生物・地学の知識等は前提としないようにする。）
- ・講義科目なので、実習・実技に相当する活動は全授業の3割程度までに留める。
- ・主題探究型科目のシラバス入力画面では、下記の手法がリストアップされるので、主要なものを1～3個選択し、どのように活用するのかを「授業概要」に記入する。

〈主題探究型科目におけるアクティブ・ラーニングを促すための手法〉

- ◆Problem Based Learning / Project Based Learning
- ◆調査
- ◆実習
- ◆実技
- ◆実験
- ◆ロール・プレイング / シミュレーション
- ◆ペア・グループワーク
- ◆ディスカッション / ディベート
- ◆プレゼンテーション
- ◆双方向型演習

授業時間外学習

- ・授業時間外の予習・復習や課題について、学生は何をすべきかをある程度具体的に記入する。
（「シラバス登録の手引き（全学版）」p. 1赤枠内の文例を参照。）
- ・授業時間外に、実習・実技・野外調査（軽微なものを除く）・リアルタイムのグループワーク（遠隔を含む）等の活動を学生に課さない。（学生に不利益が生じる場合がある。）

成績評価方法

- ・非同期型遠隔授業の場合は、「課題の提出や小テストの受験をもって出席とみなす」など、出席に相当する条件も記入する。

受講条件

- ・全学の学生が専門分野を問わず受講できるように、「受講条件」は記入しない。

【関連リンク】 [シラバス記入例等](#) | [愛媛大学共通教育](#)